

話題96 ティータイム(17)「沈める水も、浮かべる水も一つ」

お釈迦様と弟子たちがガンジス川を舟で渡る話。中途、舟に浸水。懸命に舟から水を汲みだし、何とか向こう岸に渡る。

「沈める水も、浮かべる水も一つ」。この場面についての、ある随筆家の表現である。同じ水でも、舟に入り込めば、舟を沈める。かき出せば、舟は浮かび、進み、目的地へ。

「水」を「欲」に例えた話である。欲は、生きる意欲につながり、大切。しかし、私利私欲として、貯めこんではいけない。共に生きる隣人のために用いなさいとの教えであろう。

緩和ケア病棟での思い出での一場面。息子さんからの電話。県外から。「母親が、胃がんの末期の状態です。沖縄の青い海が見たいという母親の最期の願いを叶えてあげたい」とのこと。

病棟のスタッフが、果敢にも受け入れの体制を整えた。がん性腹膜炎。常に、吐き気がある。5月。この年の沖縄の5月は、殊の外、雨が多かった。皆の願いは、叶えられないのではないかと不安に思った。土曜日の昼下がり。太陽が、一瞬、顔を覗かせた。この瞬時を逃さず、病棟のスタッフが宜野湾の海浜公園へと案内。その思い出の写真の一枚が手元にある。患者さんは、その2日後に天に帰った。

数か月後、息子さんを含めた兄弟姉妹が病棟を訪ねて来られた。家族の想いである。皆で力を合わせて、母親の最期の願いを叶えてあげた。しかし、振り返ってみると、お母さんは沖縄の青い海が見たかったのではなく、子供たちに沖縄の青い海を見せてあげたかったのではなかと。子供たちへの、最期のプレゼントだったのです。

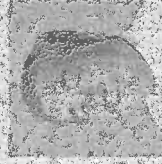
「皆で、力を合わせて、仲良く生きて行きなさい」・・・と。

(2020年6月3日 琉球新報 ティータイム)

タイムタイム

沈める水、浮かべる水

石川 清司



お釈迦様と弟子たちがガングシ入川を舟で渡る話。中途、舟に浸水。懸命に舟から水をくみだし、何とか向う岸に渡る。「沈める水も、浮かべる水も一つ」。この場面についてのある随筆家の表現である。同じ水でも舟に入り込めば舟を沈める。かき出せば、舟は浮かび、進み、目的の地へ。「水」を「欲」に例えた話である。欲は生きる意欲につながる大切。しかし、私利私欲としてためこんではいけない。共に生きる隣人のために用いなさいとの教えであろう。

緩和ケア病棟での一場面。県外の息子さんから電話。「母が胃がんの末期の状態です。沖縄の青い海が見たいとの最後の願いをかなえてあげたい。病棟スタッフが、体制を整えた。がん性腹膜炎。常に吐き気がある。5月、この年の5月は、雨が多かった。願いはかなえられないのではないかと不安に思った。土曜日の昼下がりに、太陽が一瞬、顔をのぞかせた。この瞬時を逃さず、スタッフが豊野湾の海浜公園へと案内。その思い出の写真の一枚が手元にある。患者はその2日後に天に帰った。

数カ月後、息子さんを含めたきょうだいが病棟を訪ねて来られた。息子さんを合わせ、母の最後の願いをかなえてあげた。振り返ってみると、お母さんは沖縄の青い海が見たかったのではなく、子供たちに沖縄の青い海を見せたいと願ったのだ。子供たちへの最後のプレゼントだったのです。皆で力を合わせて仲良く生きて行きなさいと。(名護市、介護老人保健施設 施設長 71歳)